

アジアでがんを生き延びる

未曾有の感染症、欧州に戻ってきた戦争、歴史の転換点にあるともいえる今
世界は大きく変動していく

しかしながらどのような危機の中にあっても、人類はがんという病から逃れられない

このような時代だからこそ、あらためて問いたい

人が生き延びるということにおいて、がんというやまいは、

どんな意味をもつのだろうか

固有性と多様性に富むアジアで、未来に大きな影響をもたらす「がん」という
アポリアに、医療・文化・経済・テクノロジー・外交など、多分野の専門知を統合
することで挑戦するプログラムである
受講者の目標としてはアジアのがんの現状とUniversal Health Coverage
(UHC)の概念の意味を理解し、今期はマレーシアをフィールドにしてUHCが
アジアのがんにもたらす意味を考察する
講義の最終日には自らの専門分野に引き寄せて、ひとががんという共有課題を
抱えながらもよりよく生きる在り方について発表し、異なる分野と問いを共有
し知的生産を行っていく、学際研究の難しさを体験する

開講科目名 / Course 医学共通講義XXI /
General Lecture in Medical Sciences XXI
時間割コード / Course Code 41211121
担当教員 東京大学大学院医学系研究科衛生学分野教授 石川俊平

開講科目名 / Course 地域文化研究特殊研究III
時間割コード / Course Code 31M220-1352S 31D220-1352S
担当教員 東京大学東洋文化研究所教授 園田茂人
東京大学東洋文化研究所特任准教授 河原ノリエ

夏学期 WEB授業 | オンデマンド | 水曜日 6限 19:00-20:30 | 2単位 再履修可能

4/13 ガイダンス「アジアでがんを生き延びるための学際研究
cross-boundary cancer studiesを
マレーシアを題材に学ぶ」

加瀬 郁子 がん研究会がん研究所特任研究員



4/20 学際研究がもつ可能性
(アジアがん学際研究の基礎知識①)

園田 茂人 東京大学東洋文化研究所教授



5/11 がんの基礎知識を学ぶ
(アジアがん学際研究の基礎知識②)

中釜 斎 国立がん研究センター理事長



5/18 アジアを俯瞰する
(アジアがん学際研究の基礎知識③)

横井 裕 前駐中華人民共和国特命全権大使
元マレーシア大使館公使



野田 哲生 がん研究会がん研究所所長
UICC-ARO Director

5/25 医療負担とがん(マレーシアの実情について)
Dr Murallitharan Munisamy

マレーシア対がん協会主任研究員



モイ・メンリン 東京大学大学院医学系研究科
ヘルスケア産業課 課長補佐



6/1 アジアヘルスケアが切りひらく未来

高橋久美子 経済産業省 商務サービスグループ
ヘルスケア産業課 課長補佐



坂野 哲平 株式会社アルム代表取締役



6/8 アジアの食生活と食文化

服部 幸應 服部栄養専門学校理事



6/15 アジアのがんとサイエンス

石川 俊平 東京大学大学院医学系研究科
衛生学分野教授



6/22 地域コミュニティの力とサステナビリティ

河原ノリエ 東京大学東洋文化研究所
特任准教授



飯野 伸吾 アステラス製薬コーポレート・
アドボカシーサステナビリティ部長



6/29 マレーシアの現場より(最終課題を組み立てる前に現場の生の声を聞く)

マレーシア対がん協会の実践と課題(英語字幕つき)

マレーシア対がん協会会長

7/13, 7/20 学生発表

2011年から続いた全学横断型連携教育プログラム「アジアで
がんを生き延びる」は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化
など様々な領域から捉えてみることを学問的考察の端緒とす
る「Cross-boundary Cancer Studies」として継続している。
東洋文化研究所においてなされるUICC-AROとのアジアが
んUHC政策研究の一環として UICC-AROからの後援も継続している

UICC-ARO
UICC ASIA REGIONAL OFFICE



* 講師、講義内容については変更の可能性があります。

連絡先: noriekawahara@nifty.com 08050397646 (河原携帯)